**造形遊びをする活動部会（上学年）**　**提案発表**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　阿南市立大野小学校　津　川　美　香

**１　はじめに**

本学級の児童は，真面目で様々な活動に意欲的に取り組むことができる。図画工作科を好きな教科だと答える児童が多い。休み時間にはイラストを描いたり，図画工作科の時間に学習した内容を活かして工作をしたりする姿が見られ，図画工作科の時間をとても楽しみにしている。

実践にあたり，子供たちが豊かにかかわることのできる主な材料として，那賀川の石を選んだ。那賀川は児童の生活圏にあり，なじみの深い場所である。自然の石には思わぬ美しさがあり，形や色・感触から発想が刺激される素材である。また，総合的な学習の時間で那賀川をテーマに学習を進めていく中で，ゲストティーチャーとして招いた石の愛好家の方から石の魅力や様々な形や色の石を紹介してもらい，石に対する興味が高まっていた。そこで，那賀川の石を中心に，材料に豊かに関わり，自分の思いのままに手や体全体を働かせて表現する楽しさを味わい，主体的に取り組むことのできる授業づくりを目指したいと考え，この実践に取り組んだ。

**２　指導の実際**

題材　『那賀川とわたしたち』〈造形遊びA表現(1)ア(2)ア　B鑑賞(1)ア　共通事項(1)ア(1)イ〉

①目標　 ア　材料や用具の特徴を生かして，表したいものを工夫してつくる。

　　　　　　　　イ　石の形や色などの造形的な特徴などから発想し，他の材料と組み合わせたりして表したいものをイメージする。

ウ 石や自然物を並べたり，つんだり，組み合わせたりして活動を楽しむ。

②実践内容

第1次　那賀川河川敷で，お気に入りの石を拾う。・・・・・・・・・・・・・ 1時間

第2次　石と他の材料を組み合わせ自分の作りたいものを工夫して表す。 ・・・2時間

第3次　自分たちのつくった作品のよさや面白さを伝え合う。・・・・・・・・ 1時間

**３　結果と考察**

（１）他教科との関連を生かした授業づくり

題材が子供たちにとってなじみのある身近な那賀川由来のものであることや，総合的な学習の時間で那賀川をテーマとして学習してきたこともあり，子供のたちの表現しようとする意欲を高め，題材に対する思いを広げることができた。子供たちの中に那賀川とのストーリーがあり，自分なりの意味や価値が形成されており，材料への思い入れが強く，自分事となって作品を生み出しやすかったのだろうと考えられる。

また，総合的な学習の時間でのゲストティーチャーとの学びから，活動する前からある程度ストーンアートやロックバランシングなどのモデルを目にしていたことで，活動の見通しを持ち取り組むことができた。

（２）思いつくかぎり，自分の表したいことを表現するための工夫

第1次で那賀川に石拾いに行き，児童は色や形の異なる様々な石や那賀川の自然の豊かさを体全体で感じていた。たくさんの石の中から自分のお気に入りの，選りすぐった石を持ち帰り，洗って乾かす間にも，「これは，ツルツルだし，スベスベで大好き」「三角だから，おにぎりに見える」など手触りや重さなどの感触を味わったり，いろいろな見立てや発想をしたりしていた。洗った石の下に葉っぱを敷く児童もいて，石を自分にとってかけがえのない宝物のように扱っている姿が見られた。児童が自分で材料集めから参加することで，自分の経験を活かし，活動への期待感を膨らませながら，より造形的な活動を思いつくことにつながった。

石以外にも，那賀川で拾ってきた流木や竹，季節の花など自然由来の材料とカラフルな色の輪ゴムやセロハン，カラービニールなど材質の異なるものを用意した。そうすることで，自然物と人工物を組み合わせたり，たくさんの材料と関わったりしながら，自分の感覚や気持ちを大事にし，思いつくまま試みる活動ができていたと思う。

また，活動の場所を多目的室及びなかよしランド(中庭)にしたことも活動が広がることにつながったと考えられる。広い空間や砂場・ジャングルジムなどの場所の特性を活かして，児童になじみのある那賀川のキャラクター「りゅうな」を発想の中心に置き，お気に入りの遊びや場所，形，色などを思い付くかぎり，材料に触りながらいろいろと試みる中で発想が広がり，生き生きと活動している姿が見られた。

（３）活動の過程で自分や友達の表現のよさや工夫に気付く

一人一人が思いついたことを出し合い，発想を刺激し合うことを目的に活動の途中に，「見る見るタイム」としてお互いの作品を鑑賞する時間を取り入れた。タブレットを片手に撮影していた児童からは，「あの流木，石の形と合っていていいな。」「セロハンの使い方がイメージに合う，僕も取り入れたいな。」と友達のよさを見つけたり自分の作品へ活かそうとしたりするつぶやきがたくさん聞かれた。そして，友達の活動の様子を参考にすることが，自分自身の技能を育てることにつながっていた。また，自分の作品を自分で撮影することで，視点が変わり，客観的に見ることができていた。自分の作品を客観的に味わうことで，それまでの活動に充実感を感じながらも，更につくりかえていこうとする意欲が喚起され，再開した活動の中で，つくりながら自分を更新していく姿，発想が高まっていく姿が見られた。課題は，活動の時間を十分確保したため，相互鑑賞の時間が少なくなってしまい，活動の過程で自分の思いやお互いの表現の良さや工夫を言葉で伝え合うことがあまりできなかったことである。子供たちのよさや頑張っていること，こだわっていることに関して積極的に声かけをしようと心がけていたが，それぞれの活動の場所がバラバラで十分できず，もっと児童と児童とをつなぐ声かけができればよかったと思う。

（４）新たな価値を生み出す　～つくり，つくりかえ，つくる～

授業を通して，自分がする行為に面白みを見つけてどんどん活動を続けることができた。石に輪ゴムを巻いて，並べては考え，並べ替え，自分が納得するまで配置を考えていた児童。ボンドと砂を混ぜるなど感覚を楽しみながらいろいろ試していた児童。一人一人が自分の思いをもち，自由に表現することで，石や他の材料に新たな価値や意味を見出し，より活動が豊かになった。

そして，第3次で自分たちの活動・作品について動画や写真をもとによさや面白さを伝え合った。児童からは，「○○さんは，最初石だけを積んでいたけど，最後には花を周りに飾って色鮮やかにしていたよ。石の宮殿みたいですごかったです。」など，友達が作品作りの途中で苦労していたことや頑張っていたことなど活動全体を振り返っての感想が出た。また，「言ってくれたので気付いたけど，りゅうなが王様になってたんだなと思った。」と活動後にも新しい価値を見出していた児童もいた。表現の途中の作品を鑑賞し合ったり，記録したりしておくことで，振り返るときに，児童の視点で活動を見つめることができ，表現の過程や変容を一緒に感じることにつながると思う。

**４　おわりに**

実践を通して，造形遊びはやっている行為自体に意味があるということを実感した。児童の活動の一瞬一瞬が造形的感覚を養っているということを，子供たちの満足そうな顔を見て感じとることができた。振り返りでは，児童から「色にこだわっていて，明るくアレンジができている。個性が出ていた。」「自分なりの考えが（作品に）出せたと思う。」との感想が聞かれた。

これからも材料と豊かに関わり，児童が自らつくりだす喜びを味わうことのできる授業を目指していきたい。